

妊娠中の感染予防のための注意事項-11か条

妊婦が病原体に感染すると、おなかの赤ちゃんも感染して病気を引き起こすことがあります。妊娠中は「病原体に感染しないこと」がとても大切です。以下の11のポイントに気をつけることで感染リスクを大幅に減らすことができます。心配しすぎず、正しい知識で適切に予防しましょう！

1



石けんと流水で、しっかり手を洗いましょう

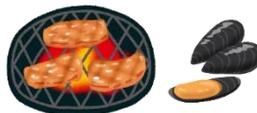
2



※サイトメガロウイルス；
こどもの唾液や尿に含まれます

こどもと食器を共有したり、食べ残しを口にするのは控えましょう

3



※トキソプラズマ原虫、リステリア菌；
生肉や生の貝類に含まれます

お肉や貝類はしっかりと中心部まで加熱しましょう

4



※有害な細菌、寄生虫など

無殺菌のミルクや、それらから作られた乳製品は避けましょう

5



※トキソプラズマ原虫；
ネコの糞に含まれます

素手でネコのトイレに触れたり、掃除をするのは控えましょう

6



※リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス；
げっ歯類の尿や糞、唾液に含まれます

げっ歯類（ネズミの仲間たち）やそれらの排泄物（尿、糞）に触れないようにしましょう

7



妊娠中の性行為の際には、コンドームを使用しましょう

8



母子感染症の原因となる感染症の検査を受けましょう

9



B群溶血性レンサ球菌※の保菌者であるか検査しましょう

10



自分と胎児の身を守るために、妊娠前にワクチンを打ちましょう

11



水痘※や麻疹※など何らかの感染症に感染している人に近づかないようにしましょう

詳しい解説は
こちらをチェック！



出典：
先天性トリアマ&サイトメガロウイルス感染症患者会「トーチの会」
https://toxco-cmv.org/for_maternity/

※サイトメガロウイルス、トキソプラズマ原虫、リステリア菌、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス、B群溶血性レンサ球菌、水痘ウイルス、麻疹ウイルスなど；どれも妊娠中に感染すると、おなかの赤ちゃんが病気になる可能性がある病原体です。

新生児難聴の主な原因のひとつに、先天性サイトメガロウイルス感染があります。新生児聴覚検査でリファー（要再検）となった場合は、聴力の精密検査の前に赤ちゃんのサイトメガロウイルス尿検査を行います。陽性だった場合は、早期に治療を開始することで、難聴の改善や進行の抑制などの効果が期待できます。心配事やわからないことなどがある場合は、産科医療機関や市町村保健担当課などの窓口にご相談ください。
※新生児聴覚検査とは、生後間もない赤ちゃんの耳の聞こえを調べるものです（公費で受けられます）

チェック！

